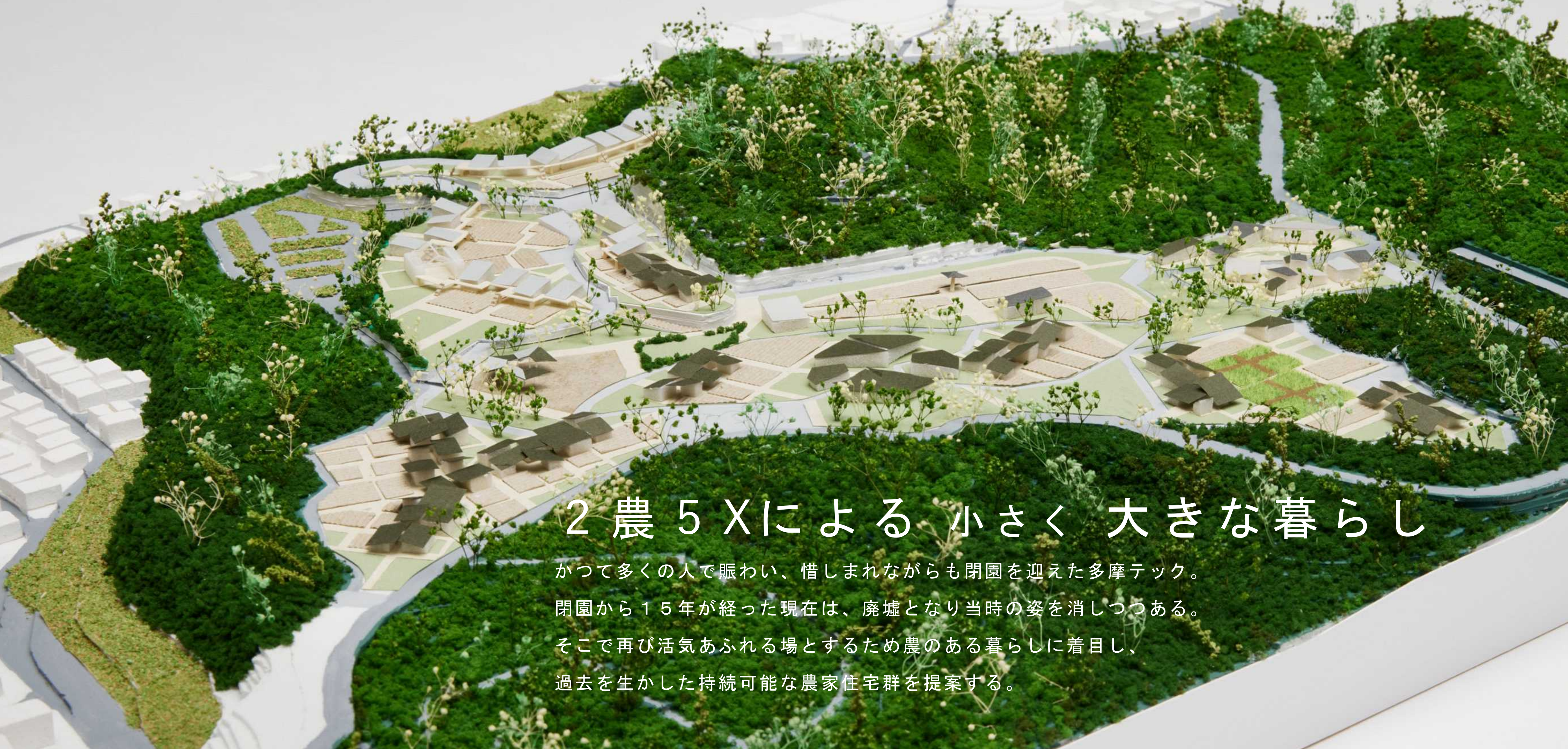
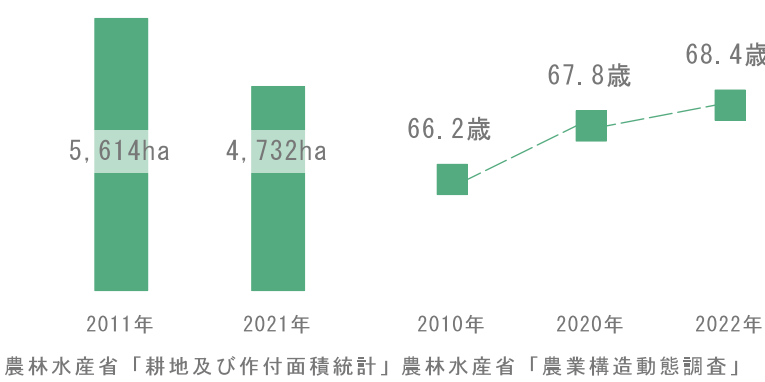




2 農 5 Xによる 小さく 大きな暮らし

かつて多くの人で賑わい、惜しまれながらも閉園を迎えた多摩テック。
閉園から15年が経った現在は、廃墟となり当時の姿を消しつつある。
そこで再び活気あふれる場とするため農のある暮らしに着目し、
過去を生かした持続可能な農家住宅群を提案する。

農業の現状



農地の減少

東京の農地は担い手の高齢化による耕作放棄地の増加や宅地化などを理由に減少している。
しかし、東京の農地は食育や緑と環境の保全、災害時の避難場所など多角的な機能を有するため残していくべきだと考えられている。

テーマ

- 農業と仕事の両立 -

2 農 5 X

5日X、2日農家として現在の仕事「X」で収入を確保しながら、気軽に農業を体験できるライフスタイルを提案する。

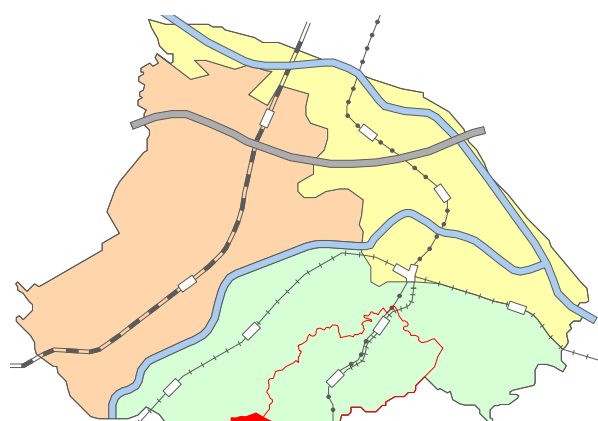
- 機械で支える新たな農業 -

農業が占める割合が少なくなった反面、作物に影響が出ないよう、ドローンによる水・肥料の散布やAIによる収穫時期の管理を行う。

- 日野市の農業 -

消費者が身近にいることを生かした庭先販売のほか、学校給食や直売所への出荷が行われている。特産物はトマトや大根、梨やブドウである。

周辺敷地

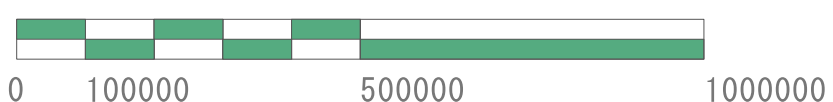


日野市

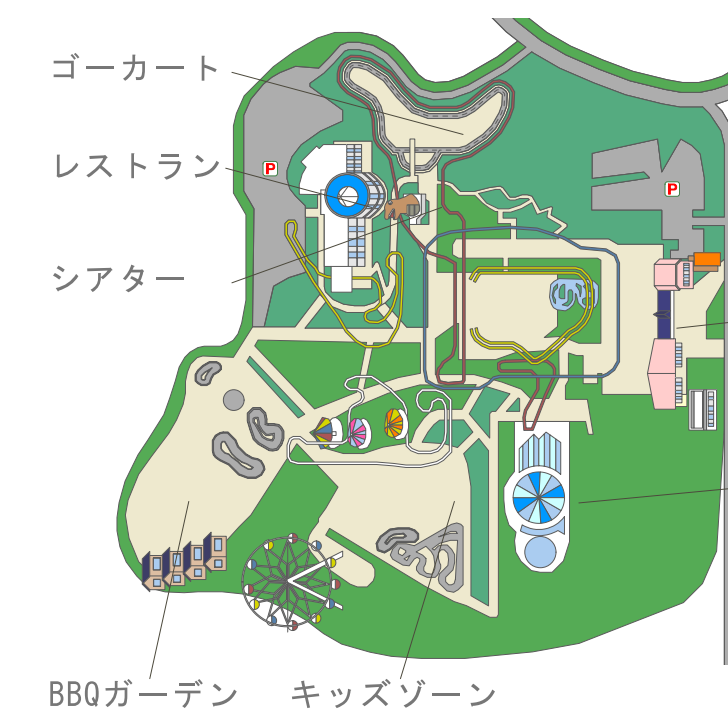
東京の多摩エリアに位置している。
戦後、大規模団地が進出したことにより首都圏の住宅都市として今日に至っている。
多様性に富んだ地形で丘陵地、台地、低地からなり、北部を多摩川が流れ、中央部を浅川が流れている。

程久保エリア

南東に位置し、街の大半を緑が占める住宅地である。
近隣に三つの大学があり、大学生が通う街である反面、市内でも最も人口減少と高齢化が進んでいる。



計画敷地



多摩テック跡地

住所：東京都 日野市 程久保5丁目21-11
面積：185700㎡
アクセス
京王線 平山城址公園駅 徒歩25分
多摩モノレール線 中央大学・明星大学駅 徒歩30分

1961年、多摩丘陵にモータースポーツの遊園地として開園し、ゴーカートや温泉などで人気を集めた。
2009年に閉園してからは大学設置の計画が白紙となったのち、現在は立ち入ることができない廃墟となっている。

テクノロジー（5世帯）

農業機械を手掛ける企業と社員が暮らし、機械の試運転を行う

食品研究所（8世帯）

育てた野菜を使い、料理や食品加工、品種改良に挑戦

学び（6世帯）

休暇中の大学生が農業講座や農業体験を通して農業に触れる

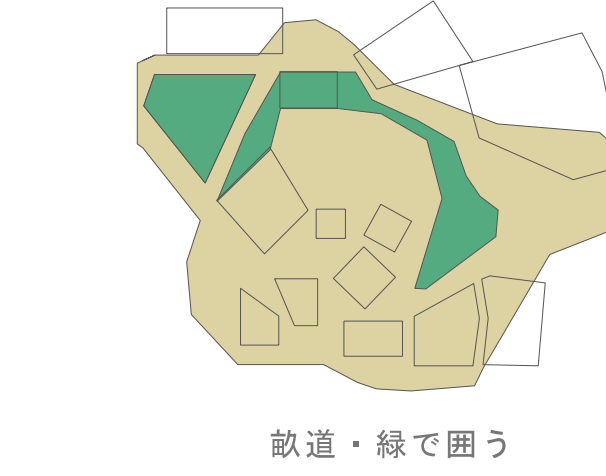
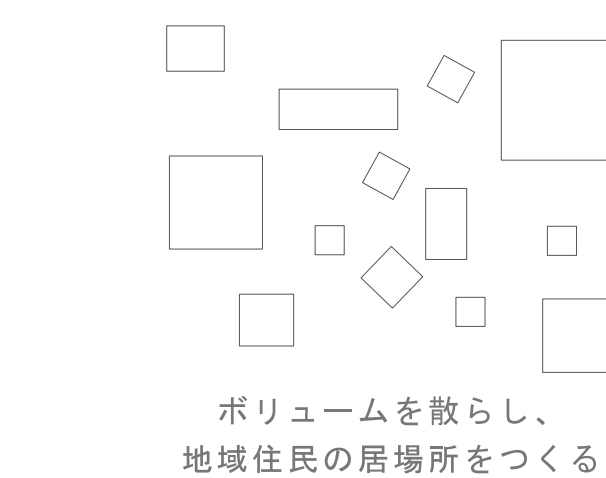
アウトドアガーデン（10世帯）

自分の畑でとれた野菜をアウトドアに活用する

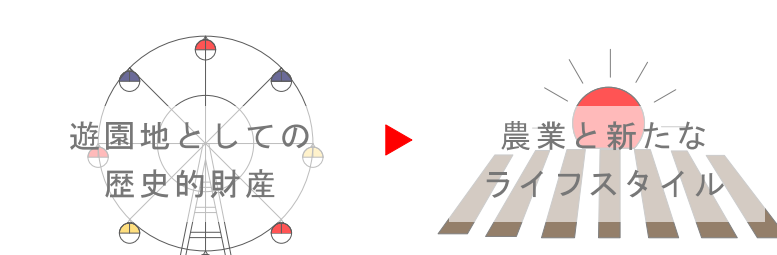
みんなの広場

住民の生活機能を支え、
周辺住民の新たな居場所となる

- 囲う空間 -



コンセプト



かつての賑わいが寂れていった空間を
新たな空間として賑わいを取り戻したい

遊園地の要素を現在に



移動手段の多様化
モーターカーの遊園地
街の区画、自転車道に活用

遊園地の要素
レストラン
街のカラー

BBQガーデン
食品研究所

子どもの遊び場
アウトドア

プール
子育て

シアター
水稲栽培

ゴーカート
学び

テクノロジー

